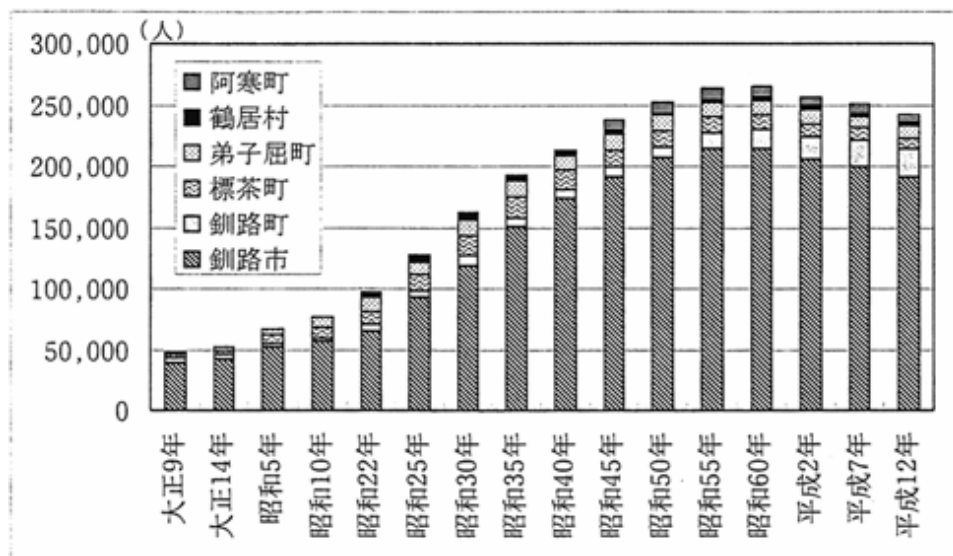


5. 生活環境の実態

5-1 人口の推移

人口の推移

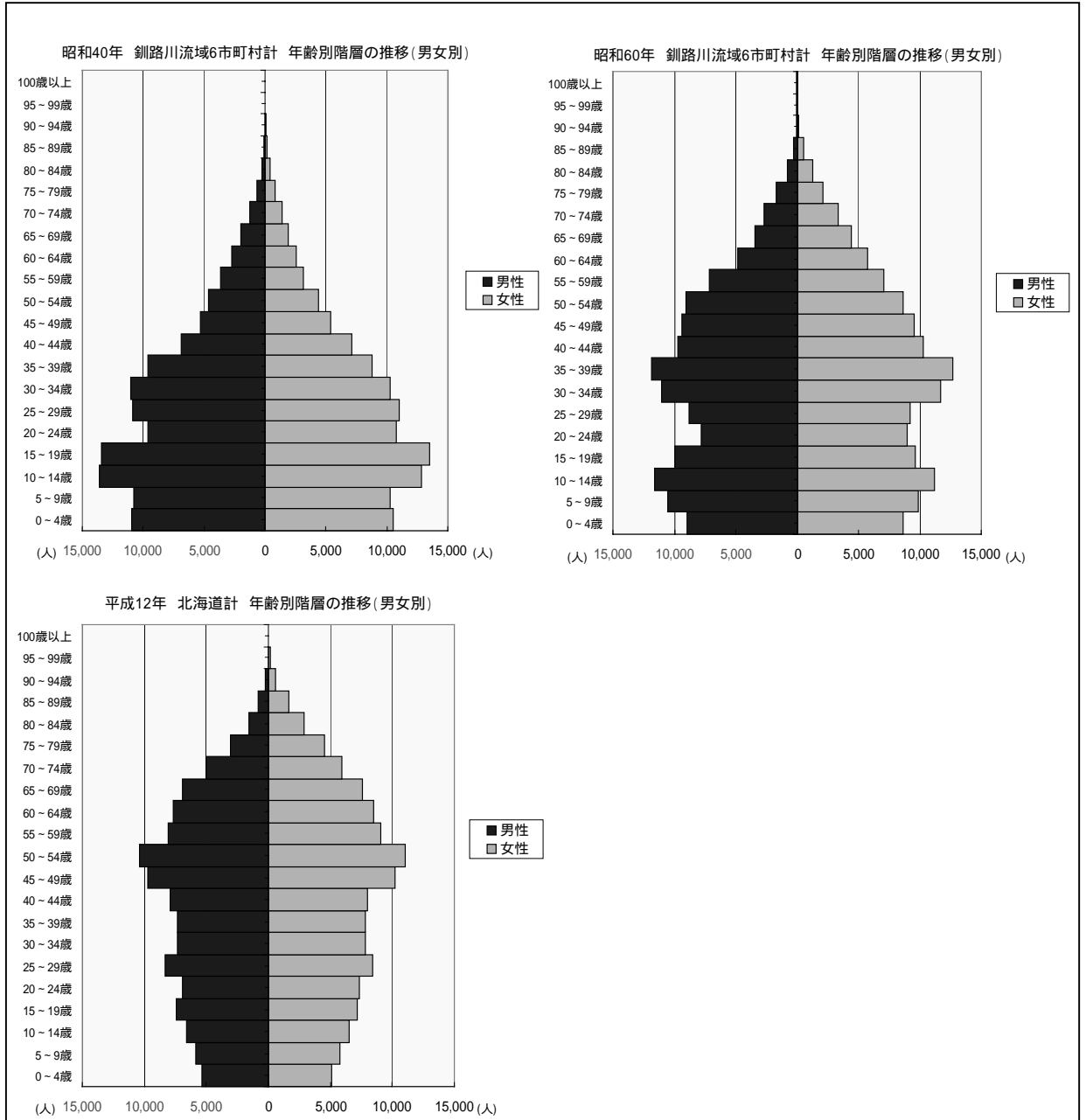
人口は開拓期以降、増加を続けてきたが、昭和60年の26.5万人をピークに漸減傾向にあり、流域の活性化のためには、特に若年層の流出を抑える必要がある。
平成12年度の国勢調査では流域6市町村の合計が約24万人となっている。この内、約19万人が釧路市の人口で流域全体の8割を占めている。



出典：国勢調査報告(T9からH12年度)

年齢階層別の推移

年齢階層別の推移をみると昭和40年のピラミッド型から、昭和60年の釣鐘型、平成12年の壺型に移行しており、少子高齢化の進行が伺える。



[出典：国勢調査報告]

5-2 公園緑地

都市公園の整備状況(H12.3.31 現在)

流域6市町村の都市公園は釧路市をはじめとする4市町に整備されている。
都市公園は4市町で住区基幹公園が172箇所、都市基幹公園が5箇所、その他公園が2箇所整備され、計画に対し88%の整備率となっている。

市町村名	住区基幹公園 (街区・近隣・地区公園)		都市基幹公園 (総合・運動公園)		その他公園 (広域公園等)	
	計画件数	整備件数	計画件数	整備件数	計画件数	整備件数
釧路市	167	149	4	4	2	2
釧路町	20	14	-	-	-	-
標茶町	7	7	1	1	1	0
弟子屈町	2	2	-	-	-	-
合計	196	172	5	5	3	2

〔出典:平成13年 北海道の都市計画〕

5-3 福祉

公共施設のユニバーサルデザイン化

流域内には多数の公園やその他関連施設が整備されており、近年においては高齢者や障害者が安全かつ円滑に行動できるよう、公共施設のユニバーサルデザイン化が進められている。



釧路市内の公園のトイレ

著作権の都合上、画像の掲載できません。

ユニバーサルデザインの探勝路